

Al Vi Kara

N-ro 94, aprilo 2008

Hatena::Diary [日記] [検索] 最新の日記 記事一覧 ユーザー登録 ログイン ヘルプ

Kioto-Esperanto-Societo 京都エスペラント会

<前の10日分

2008-03-16

■ [Festo] 記

「2008ボランティア・市民活動フェスタ」

に参加しました。

みやこめっせ1階の展示場に、150団体のブースが並んで仕立てました。お天気にも恵まれ、たくさんの訪問者を得て、にぎやかな一日になりました。

京都エスペラント会のブースには「英語の教科書でエスペラントのことを習った」「昔ちょっと勉強した」という年齢の方や、外国の高校生のホームステイのお世話をしているという若い男女など、さまざまな方が立ち寄ってくださいました。ケーブルテレビ「みやびじょん」の取材も受けました。

プロフィール

esperanto_kioto
Kioto-Esperanto-Societo 京都エスペラント会

カテゴリ

- Regula Kunveno
- Prelego
- Festo
- 広報
- 年次総会

La blogo de nia societo estis lanĉita en julio, 2007. Tie oni raportas ĉefe agadojn en Kioto, tamen plejparte en la japana lingvo. Bonvolu legi ĝin.

http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/

ENHAVO

Ni vigle agadas en Kioto! (活動報告)

京都エスペラント会 2007年次総会	3 p
入門講習会	
例会・有志の学習会	
エスペラント展示会	4 p
第55回関西エスペラント大会への参加	
第92回世界エスペラント大会への参加	
シリーズ交流会「エスペラントで知る各国事情」	
第1回「変化に富んだ国 スイス」	5 p
第2回「オーストラリア 自然がもたらす笑い と 涙」	
第3回「ほんとうのアメリカ人の姿とは」	6 p
第4回「17カ国の子どもたちが共に過ごした一週間」	
第5回「ネパールの社会問題」	7 p
2007年エスペラント祭	8 p
京都新聞の記事とKBS京都ラジオに出演	9 p
京都エスペラント会 2008年次総会	
「2008ボランティア・市民活動フェスタ」に参加(相川 節子)	9 p
新会員の自己紹介	
村上 正彦	11 p
水渡 篤子	12 p
森川 和徳	12 p
横浜U K(世界大会)の感想	
「話題」を持つことの大切さを学ぶ(川越 幹)	14 p
Retrorigardante la UK-n en Jokohamo(山本 鳩江)	15 p
エスペラントを学んでいる人は、皆、エスペラントを 広めることに情熱を抱く(津田 昌夫)	17 p
Kiel Gasto aŭ Gastiganto(笹沼 一弘)	19 p
京都のエスペラント会館について(相川 節子)	21 p
エスペラント会館の誕生と広報(光川 澄子)	23 p
有志の学習会へのお誘い(後藤 美和)	25 p
Lia peto venas al mi, kiam la antaŭan peton mi forgesis. (光川 澄子)	26 p
Saluton(出口 直子) Prego(川西 徹郎)	31 p

Ni vikle agadas en Kioto !

このコーナーは、京都エスペラント会の月刊の活動情報誌「事務局通信」(川越 幹さん編集)の記事を中心に、主な活動を紹介するものです。今回は、2007年1月～2008年3月の情報を掲載します。2007年は横浜・世界大会が開催されたこともあり、大変盛り沢山の活動が行われました。

京都エスペラント会 2007年次総会

- ・日時 2007年1月21日(日) 10:00～17:30
- ・場所 エスペラント会館
- ・参加者 8人(委任16人)

入門講習会

- ・日時 2007年4月18日(水) 昼の部(2時～4時)、夜の部(7時～9時)
- ・場所 エスペラント会館
- ・講師 昼の部 川越さん、夜の部 相川さん
- ・参加者 9人、そのうち、全くの初心者は4名
- ・講習会後の入会者 5人
- ・外国からのお客様

新会員の紹介は
本号11～13頁参照

講習会の後半に田平さんの通訳で、下記ドイツ青年クリストフ・ノス(Christoph Noss)さんとの会話の場ができ、エスペラントの世界の一端を目のあたりにすることができ、受講者に好印象を持っていただいた。

京都エスペラント会・例会

毎週水曜日・午後7時から9時まで

エスペラント会館(本号21～24頁参照)にて

有志の学習会(本号25頁参照)

4月中 毎週木曜日・午後1時30分から3時30分まで

5月12日から 毎週月曜日・午前10時30分から12時00分まで

エスペラント会館にて、子連れ参加も歓迎

有志の研究会

毎週木曜日・午後7時～9時、エスペラント会館

有志の土曜日のおしゃべり会

毎週土曜日・午後2時～4時、京阪丹波橋駅西側の喫茶店「リーブル」

エスペラント展示会

- ・日時 2007年6月16日(土)～30日(土)
- ・場所 京都府国際センター(JR京都駅ビル9階)
- ・講演会
6月19日(火)午後2時～4時、中津正徳様に「国際語エスペラントとは？」というテーマで講演していただきました。
- ・展示内容
今までの展示会には「エスペラント説明パネル」を宇治城陽エスペラント会から借用していましたが、今回は後藤さんと相川さんのご努力で自前のパネルを作成することが出来ました。

第55回関西エスペラント大会への参加

- ・日時 2007年6月9日(土)～10日(日)
- ・場所 枚方市立地域活性化支援センター
- ・京都エスペラント会会員のトピックス
大会1日目の朗読コンクールにて、藤本達生さんが第1位の賞を獲得されました。
大会2日目の「わが町紹介コンクール」(伊藤美智恵さん、山本鳩江さん、川越幹さん共同準備)に川越さんと山本さんが出演しましたが、結果的には入賞を外しました。事後の反省では、狙いと内容は良かったが、パソコンを含めた表現テクニックが他より見劣りしたものと思われました。因みに第1位はパソコンを駆使しての神戸、2位はベテラン江川さんの巧みな話術の和歌山、3位は全員参加が評価された宇治城陽となりました。

第92回世界エスペラント大会への参加

- ・日時 2007年8月4日(土)～11日(日)
- ・場所 横浜市・パシフィコ横浜など
- ・京都関連の参加者(順不同、敬称略)
次の方々が参加し、講演・遠足ガイド・各部門のヘルパントなどで活躍。
伊藤美智恵、田平正子、出口直子、出口ゆかり、中江かずみ、成田和子、
光川澄子
笹沼一弘、津田昌夫、田中健一、川越幹、藤本達生、森川和徳、小橋良太郎
(準会員)相川節子、吉川奨一、大信田丈志、川西徹郎、山本鳩江
- ・世界大会のA K(大会前観光 Antaŭkongreso)
A Kのうち2コースの人たちが京都を訪れました。笹沼一弘さん・相川節子さん・光川澄子さんの3人が観光ガイドをされました。8月1日の夕方には、

世界大会の感想は
本号14～20頁参照

川越幹さん・成田和子さん・伊藤美智恵さん・川野邦造さん・山本鳩江さんが旅行団のみなさんと夕食をともにしました。

シリーズ交流会「エスペラントで知る各国事情」

京都府国際センターの上期「国際活動団体支援育成事業助成金」募集に、横浜世界大会前後に入洛する海外エスペ란ティストによる公開講演会を7月と8月に4回開催するという計画を申請し、受理されました。その結果、次のように開催しました。

第1回「変化に富んだ国 スイス」

- ・日時 2007年7月16日(月、祝日)午後7時～9時
- ・場所 エスペラント会館(本号21～24頁参照)
- ・講師 ミレイユ・グロジャン (Mireille Grosjean, スイス人女性, 教師)
- ・参加者 10人
- ・内容 スイスの国情について、その使用言語や宗教、習慣、教育情勢等々、多方面にわたってエスペラントで説明していただきました。



第2回「オーストラリア 自然がもたらす笑いと涙」

- ・日時 2007年7月23日(月)午後2時～4時
- ・場所 エスペラント会館
- ・講師 インドゥラーニ・ベハリール (Indrani BeharryLall, オーストラリア在住カナダ人女性)
- ・参加者 8人
- ・内容 オーストラリアの自然、独特の動物や植物、気候などを、美しいスライドの数々で紹介していただきました。

第3回「ほんとうのアメリカ人の姿とは」

- ・日時 2007年7月30日(月)午後7時～9時
- ・場所 エスペラント会館
- ・講師：ジョエル・ブロゾブスキー (Joel Brozovsky アメリカ人、著述業)
第3回の講演を依頼していたレザ・トラビさん(イラン)は、ビザ発給が遅れたために予定の日に来日できず、ジョエルさんに急遽代役をお願いしました。ジョエルさんは京都エスペラント会の前会長です。
- ・参加者 12人



第4回「17カ国の子どもたちが共に過ごした一週間」

- ・日時 2007年8月15日(水)午後2時～4時
- ・場所 京都府国際センター(京都駅ビル9階)
- ・講師 ベルト・シューマン (Bert Schumann) とその夫人、お子さん2人
(夫ドイツ人<IT技術者>, 妻フランス人<元教師>)
- ・参加者 約20人
当会会員だけでなく、奈良エスペラント会や豊中エスペラント会の会員、また世界大会後京都を訪れていたロシアやドイツのエスペランティストなどが参加され、また一般の方も2人参加されました。
- ・内容 2006年にイタリアで開催された Internacia Infana Kongreso (国際子供大会)の様子を約200枚の写真を映写しながら話されました。
(次ページの写真を参照)



シューマン氏



第5回「ネパールの社会問題」

- ・日時 2007年8月18日(土)午後7時～9時
- ・場所 エスペラント会館
- ・講師 ラゼンドラ・マナンドール (Rajendra Manandhar, ネパール人, 新聞記者, 下の写真の前列右から4人目)
- ・参加者 12名(外国人エスペランチスト3名を含む)
- ・内容 多民族国家ネパールの民族問題、宗教問題、ヒンドゥー教のカースト制度などについて話されました。



2007年エスペラント祭

宇治城陽エスペラント会・近江エスペラント会・京都エスペラント会合同

・日時 2007年12月16日(日) 13:30～17:00

・場所 京都府国際センター会議室(駅ビル9階)

・出席者 34名(小児1名含む)

・司会者 笹沼一弘

・プログラム

(1) エスペラントの歴史と現状について(山本鳩江)

(2) 経験交流：外国人の家庭宿泊受入体験談

(森川和徳、大西真一、田平正子、光川澄子、藤河純子)

(3) 個人・グループの出し物

エスペラント紙芝居「浦島太郎」(山本圭一)

ギター伴奏による合唱「Kanto de la Kvar Sezonoj」(成田和子)

ザメンホフの側面に関するクイズ(相川節子)

(4) 書籍感想(笹沼一弘、光川澄子、山本鳩江)

(5) 連絡事項

エスペラント通信講座(藤巻謙一)

第26回日韓中セミナーと第5回アジア大会について(田平正子)

第56回関西大会について(清水博子)

(6) 書籍販売等

出席者は予想より多人数となりましたが、ne-esperantistoは2～3名程度。従来の円座となって自己紹介する形でなく、教室形式なので、祭りという雰囲気は醸せませんでした。書籍の売り上げは良好でした。



京都新聞の記事と KBS 京都ラジオに出演

(1) 京都新聞

京都新聞 2007 年 1 2 月 2 日朝刊市民版「京 de 二人」に「エスペラントで楽しく交流」というタイトルで、相川節子さんと田平正子さんが写真付きで掲載されました。

(2) KBS 京都ラジオ

2007 年 1 2 月 9 日「われら夢の途中」で相川節子さんがスタジオインタビューを受けられました。1 2 月 2 2 日には「早川一光のぼんざい人間」で田平正子さんが電話インタビューを受けて、それぞれエスペラントと Pasporta Servo の話をされました。

京都エスペラント会 2008 年次総会

・ 1 月 2 7 日 (日) 13:30 ~ 17:30、エスペラント会館にて開催。

・ 参加者 1 0 人 (委任 1 7 人)

・ 新体制

会長：笹沼一弘、事務局：川越 幹、会計：後藤美和

広報：光川澄子、川越 幹

KLEG 委員：藤本達生、笹沼一弘、伊藤美智恵、川越 幹

会誌編集：(編集長) 森川和徳、笹沼一弘、田平正子、山本鳩江、川越 幹

・ 活動計画

講習会：一回方式で、3 月下旬か 4 月中旬 平日の昼と夜、土曜の昼等を検討
展示会：京都府国際センターで 9 月ごろを予定。

例会案：昼間の開催も検討。

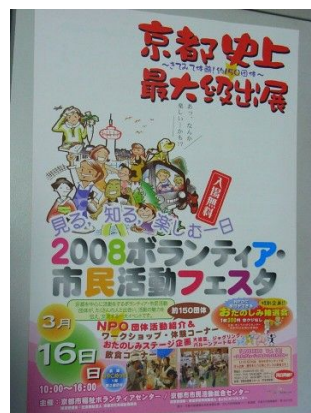
会誌 Al Vi Kara の発行を再開。

「2008 ボランティア・市民活動フェスタ」に参加

(以下は、相川節子さんの報告です)

3 月 16 日の日曜日、京都市勧業館 (通称みやこめッセ) で、「2008 ボランティア・市民活動フェスタ」が行なわれました。これまで定期的に行なわれていた「NPO・市民活動見本市」と「京いきいき・ボランティアまつり」のふたつのイベントをひとつにしたものだそうです。参加団体 150、入場者は 9000 人という大規模なイベントでした。

京都市市民活動センター (所在はひと・まち交流館) から、メールでブース出展の案内がきたのは 1 月 13 日でした。さっそく例会で相談し、川越幹さんに申請書類を書いてい



いただきました。出展が確定したのは2月初めで、説明会には川越さんが出席してくださいました。ブースの大きさや机・椅子の数などが説明会ではっきりしました。

ブースの大きさは畳1枚ぐらい。いつものパネルを並べるには小さすぎます。そこで、後藤美和さんが展示ポスター作成を買って出てくださいました。「エスペラントとは何か」をQ & A方式で説明し、会の活動の紹介に写真を多用した、カラフルなポスターができました。

当日は、山本鳩江さん、川越さん、相川の3人が早朝からエスペラント会館に集まり、展示物をかかえてタクシーでみやこめっせに向かいました。

みやこめっせでは、森川和徳さんと田平正子さん、田平宅に滞在中のドイツ人 Michael Woter さん、そしてお子さんふたりを連れた後藤美和さんが合流しました。

ブースにはいろいろな方が立ち寄ってくださいました。「以前は流行っていたが、まだあったのか」という方は相変わらず多いです。その都度、昔と変わらずエスペラントによる国際交流を実践していることを説明しました。今の時代、マスコミがとりあげない物は存在しないとみなされる、と改めて感じています。でも一方では、「おすすめのエスペラント学習書は？」と聞いてくださる方もありました。日本エスペラント学会発行のパンフ「国際語エスペラントへの招待」を買ってくださった方は4人、ほかに、学会のチラシを約50枚、京都エスペラント会を紹介するチラシを約40枚配布できました。状況に応じて、関西エスペラント連盟の図書カタログや関西大会のチラシもお渡ししました。

会場の舞台では「活動PRタイム」があり、抽選で選ばれた団体が活動の紹介をします。当会はWoterさんに舞台にあがっていただき、田平さんがインタビューするというかたちで、エスペラントの実用性を見てもらいました。

イベント終了後は、Woterさん、それから川越さんの友人の ne-esperantisto といっしょに近くの喫茶店でしばしのおしゃべりをしました。

上記のみなさんのほか、光川澄子さんには、マスコミへの広報とチラシの準備でお世話になりました。みなさん、ありがとうございました。(相川節子)



新会員の自己紹介（１）

村上正彦（むらかみ まさひこ、京都市伏見区）

新入会員ですが、エスペラント暦は約 10 年です。はじめは「エスペラント・エクスプレス」で勉強しました。テープは 1 年くらいウォークマンで四六時中聞きました。この効果は今実感しています。田平さんが僕の発音は良いとってくださいました。びっくりしました。

しかし、その後はさっぱりでした、独学と言うこともありますが、努力不足もあって、進歩しませんでした。「E 四週間」を読破しようと思いましたが、いつも 70 頁あたりで単語が分からなくなり、何回も挫折しました。電車の中での勉強なので、辞書を引くのが億劫でした。その後、対訳をいろいろ読みました。

で、思い余って、中級の通信講座を受けました。正解でした。ヒアリングはあまり苦労しませんでした。やった事は音読 10 回の死守だけです。文章が難しくても 4,5 回読めば意味は理解できました。それで、藤巻先生に生の発音に接するとよいと言われ、この会に、お世話になることにしました。

いまは、土曜日の喫茶リーブルの会合に時々参加させてもらっています。それと、GO - AM I KO に囲碁の呉清源の布石の本を訳しています。これは、桜井信夫さんが協力してくださっています。

今の、僕の欠点は、基本単語の不足です。それを、補うために、色々な中級の教科書を読もうとしていますが。大変です。E 界で必修と言われている本の訳が対訳があったらなあと思いますが、我儘でしょうか。現在まで、E の勉強時間は 500-600 時間と思います。でも、E てとても難しい。でも、頑張ります、

怠け者ですが、今後もよろしくお願いします。

P. S. 提案があります。E の宣伝に役立つキャッチフレーズを考えるのはどうでしょう。その、言葉を聞いて、「E てなに？」と思うような言葉が見つかるといいなと思います。僕の今の案は「地球家族の言葉・エスペラント」です。



新会員の自己紹介（２）

水 渡 篤 子（すいと あつこ、京都市左京区）

昨年、大阪府池田市のグルーポから転居に伴い、京都に移らせていただきました。50年前に小学校の国語でザメンホフを知りました。今ではスタートから10年にもなりますが、何度も中断をくりかえしてきたのは止むを得ないこととはいえ、惜しいことでした。国内外の行事や日頃のクラスも出来る範囲で参加させていただきました。ほそぼそでも続けていれば、周りに迷惑かけず熱中出来る日が来るかもしれません。大いに楽しめる日を期待して学び、忘れ、学び、忘れをくりかえします。どうぞよろしくお願いいたします。

新会員の自己紹介（３）

森 川 和 徳（もりかわ かずのり、京都府乙訓郡大山崎町）

京都エスペラント会に入会しました。新参者ですが、宜しくお願いいたします。

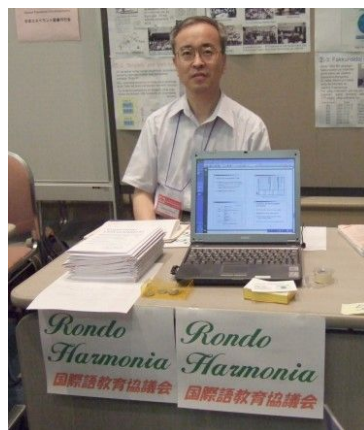
１．生まれ

芸能人やスポーツマンでは、明石屋さんま、郷ひろみ、千代の富士と同じ年の生まれ。

九州の佐賀で生まれました。佐賀は「がばいばあちゃん」で少し知名度が上がった地方都市です。

２．住まいと家族

川越さんと同じ、大山崎町に住んでいます。京都の電機会社に勤めており、電子技術を専門としています。家族は、妻と子供3人、犬と猫。勉強のため、長男と次男が家を離れており、寂しくなっていますが、犬と猫がそれを補ってくれています。



昨年の横浜・世界大会の
Movada Foiroにて

３．エスペラントとの関わり

30年以上前、大学生の時に Rondó・ハルモニーア (Rondo Harmonia 1966年創立、1980年代前半までは学生が中心で活動、現在は学生出身メンバの活動が中心。) に入会し、エスペラント語を学び、活動を始めました。結婚までは、エスペラント一筋でやってきました。Komuna Seminario inter Koreaj kaj Japanaj Junuloj の第1回(1882

年)から第3回(1884年)まで日本側の責任者をやらせていただいたのが、一番の思い出です。

結婚後は生活環境が変わり、活動量がガタ落ち。

2006年12月までは京都府綾部市の事業所に単身赴任をしていました。2007年1月に滋賀県草津市の事業所に転勤したことを切っ掛けに、同年4月より、京都エスペラント会に顔を出させていただいています。

現在の活動はロンド・ハルモニーアの事務局的な役割を担っています。

- ・財務
- ・会誌 La Harmonio 発行(年4回)
- ・メールマガジン発行(年6回)

しかしながら、会社の仕事が忙しく、時間が取れず、京都エスペラント会の水曜日の例会にもあまり出席できないのが、残念です。

4. エスペラントは日本人にとって発音が易しい

日本人にとっては「発音がやさしいこと」がエスペラント語を学ぶのに最大の長所と思います。書くとおりに話し、話すとおりに書く、いわゆる一音一語の原則です。

英語は、書くとおりに話されないため、聞いたり話したり大変難しい言葉です。例えば、American(アメリカ人)は学校で習ったカタカナ発音では「アメリカン」ですが、このとおりに発音しては通じません。Americanのmeに強いアクセントがあるため、先頭のAは聞き取れないほど小さく発音されます。canのaは日本語にない母音ですが、「ア」と「エ」を比較すれば、「エ」の発音に近いそうです。そのため、カタカナで表そうとすれば、昔ながらの「メリケン」という発音が原音に近いそうです。

2001年の亀岡市の日本大会に参加し、十数年ぶりに外国人エスペランティストの講演を聴いたのですが、だいたいの意味は理解できるのに驚きました。

英語の学習時間はエスペラントの10倍以上かけており、英語での「読み書き」はそれなりにできますが、「聴く話す」はまったくダメです。外国人との意思疎通の手段としてはエスペラントの方がはるかに優れていると思います。

5. 連絡先

電子メールは毎日チェックしていますので、ご連絡はメールでお願いします。

kz_morikawa@yahoo.co.jp

ブログも少しやっていますが、更新は二ヶ月に1回程度です。

<http://d.hatena.ne.jp/kzmorikawa/>

以上

横浜UKの感想（１）

「話題」を持つことの大切さを学ぶ

川越 幹（京都府乙訓郡大山崎町）

今回は日本で開催されるというまたとない機会であり、主にその雰囲気及び世界からの参加者の表情を知るために参加しました。もっとも横浜は京都から比較的行きやすく、及び個人的には、私の息子が住んでいる町でもあり、また小学校の同窓生にも会いたい等いろいろな意味を込めて横浜に行きました。但し滞在日数は、生憎転宅事情を挟み、８月４日～８月７日と短期間ではありました。

８月４日は、Komenco de Akcepto が始まり名札（１０９７）をもらい、それを首から下げるとおぼつかないながらも世界のエスペランティストの一人との感じを持ちました。また多数の Helpantoj の親切な対応には感謝しています。

今回の参加は、各プログラムを多数まわるのではなく、全体の雰囲気を感じることに、合間の時間にロビーで寛いでいる人たちと片言でも話し合うことをしようと、誰ということもなく、声をかけましたが、驚いたのは、私自身もうよい歳とと思っていましたが、７０～８０歳台の人も少なからずおられ、丁寧に受け答えをして頂いたことで、その年齢で杖をついてでも、日本に来られるそのバイタリティーには敬服しました。ただ何を言っておられるのかは、半分以下しか分かりませんでした。それでも友好のことばエスペラントがあったからこそと思っています。尚、あとで聞いた話ですが、残念ながら Amika Vespero には、出席できませんでした。

８月５日の日曜日は、感激的な開会式のあと、ZAIMに移動し私の息子に「９０分に分る国際語エスペラント入門講座」を受講させました。全くの白紙の参加者同士
(次ページへ)



横浜UKの感想 (2)

Retrorigardante la UK-n en Jokohamo

YAMAMOTO Nihoe
(Simogyo-ku, Kioto)

Jam pasis duon-jaro kvazaŭ flug-sago post la UK en Jokohamo. Antaŭ- kaj Dum- kaj Post-UK kiujn ni respektive partoprenis en diversaj formoj .

En la Antaŭ-kongreso kelkaj volontuloj el ni rendezuis ĉirkaŭ la fronto de la hotelo Hankyu apud la stacio Kioto.

Distribuinte nin en grupoj, unu aŭ du volontuloj kun pli malpli deko da alilandanoj, ni respektive gvidis niajn grupojn al la larĝaj sed japan-etosaj manĝejoj apud de la hotelo. Pro niaj vizitoj en la manĝejoj sonoris Esperantaj vortoj kaj frazoj, kio surprizus kaj la kelnerinojn kaj ĉirkaŭ-sidiĝintojn pro neniam aŭdintaj lingvo-sonoj. Interesiĝitoj de niaj interparoloj demandis nin pri la lingvo en kiu ni relative flue interparolis antaŭ ili. Tio konigus kaj instigus ilin pri la ekzisto kaj plie la efektiveco de Esperanto kiel la praktika lingvo. Almenaŭ mi kredas tiel.

(Daŭrigota al la sekvanta paĝo)

(前ページより)

の会話実践での講座は、意外にスムーズに進み、初心者講習のあり方に学ぶべきものがありました。会場は、定員をはるかに超える参加者があり、さすが横浜かなと思った次第です。

その他は、Paroligaj Kursoj に連日参加し、外国人によるエスペラントの教え方は大変ユニークなものと感心しました。

全体としていえることは、エスペラントが話せるかどうかでなく、どんな「話題」を持っているかが大切と思いました。そうでないと Saluton / Ĝis revido 会話に終わってしまいます。にも拘わらず、たいいていの人、なぜあんなに長々と話せるのかなあと感心しました。今までエスペラントは、生活のワンノブゼムというか、どちらかというと半身で参加する程度でしたので、無理もないなあと思った次第です。

初めに言いました様に、会期が私の転宅を挟んだため、貴重な思いでをお土産に 8 月 7 日には横浜を後にしました。 (終)

Kaj cetere laŭ bonveniga servo ĉe la flughaveno Narita dum du tagoj antaŭ la inaŭguro mi kaj s-ro TAHIRA Minoru respektive starante ĉe la apartaj alven-vestibloj klopodis zorgi la alvenintojn alilandajn por partopreni en la UK en Jokohamo por ke ili ne bone sciintaj la trafikajn situaciojn al la kongresejo estu gviditaj pri la konvena trajno aŭ limzinbuso pri la kostoj kaj la bezon-horoj kaj frekventecoj kaj la alveturejoj (stacioj) kaj oportunecoj. Krom ni du, kelkaj volontuloj de la alia rondo (eble el la gubernio Tiba) individue helpis same kiel ni.

Partopreno en UK nombras kvar fojojn ĉi-foje en Jokohamo. Laŭvice en Gotenburgo, Pekino, Florenco. Ĉar okazis en nia lando, mi ne trovis bonan pretekston ferii dum la kongreso kaj rezultiĝis partopreni duonon da kongresaj tagoj, en la programeroj, la Inaŭguro, la Nacia Vespero, kaj kelkaj Fakkunsidoj kaj distriĝa fumanto-kunsido konsistantaj el la preskaŭ samaj kunsidantoj kiuj observas la tradician humoron per tiaj saĝuloj kiel d-ro ZAMENHOF ekde la unua UK en Bulongne-sur-mer. Mi fiere kaj impone proklamu ankoraŭ plu aŭ ĉe la rando de mia senkorpiĝo fumu laŭ la deca maniero senĝene de ne-fumantoj.

Cetere por iri al Jokohamo mi uzis la la plej rapide kurantan trajnon t.n. Sinkansen-n sed kaj por reiri de tie la noktaj busoj pro ambaŭ kialoj pri mono kaj tempo-oportuno. Kaj gastiginte en la amas-loĝejo mi povis ĝui konversacion kun loĝ-kolegoj venintaj el eksterjapanio foje drinkante ladskatolajn bierojn kvankam tie oni malpermesis drinki pro la karakterizo de la loĝejo por junularo kaj infanaro.

Temas pri la Antaŭ- kaj Post-UK, mi sola aŭ kune kun kelkaj kamaradoj japanaj ĉiĉeronis en la urbo Kioto kaj Nara por Esperantistoj el Svislando, Aŭstralio, Bulgario, Nepalo, k.c. kaj Scenoj kun ili postrestas en mia memoro kara. Dank' al Dio kaj Esperanto mi multobligis vivĝojn kaj gravuris sur mia kor-kajero trezoran memoron.

<要約>

世界大会前は、京都のホテル近くで外国人と食事をした。開会式前の二日間は成田空港で外国人を案内した。世界大会の参加は、今回の横浜で4回目。喫煙者の会合に出席し、ザメンホフのように非喫煙者に迷惑をかけないように吸うことを宣言したい。世界大会後、外国人を京都や奈良に案内。エスペラントのお陰で、貴重な経験を得た。
(編集子)

横浜UKの感想（3）

エスペラントを学んでいる人は、皆、エスペラントを広めることに情熱を抱く

津田 昌夫（兵庫県西宮市）

私は、今年（2007年）の夏、横浜で開かれた第92回世界エスペラント大会に参加した。大会後の遠足で、50人程の世界から集まったエスペランティストたちの東京見物のお世話をした。そして、エスペラントを勉強し、その理念、その言語の美しさに魅入られた人たちは、国籍に関わらず皆、当たり前のこととしてエスペラントのプロバガンディストになるのだということを目の当たりにし、少なからず感動した。以下は、その体験を簡単にまとめ、大会関係者に送った小文である。

東京観光については、I氏がまとめておられるので、そちらを見てもらえばよいと思いますが、一つだけお伝えしておきたいことがあります。

昼食に出てきたものを見て急にヴェジタリアンでなくなってしまう、あるいは、このホテルはポーターがないから荷物は各自が部屋へ運ぶこと、といった指示を全く無視し、結局、こちらが部屋まで運ばざるを得なくなってしまう、雷門で集合と言ったのに本殿で待つと聞いたと主張する人たちなど、全体に、わがままな参加者が多くて閉口したのですが、Kolkerさん("Vojago en Esperanto-Lando"の著者)とは2日間一緒に沢山お話でき、しかも抱擁まで交わしたことは、生涯忘れないだろうことの一つです。Zorganto(世話役)のどなたかが言っておられたのですが、「終わり良ければ、全て良し(fino bona, ĉio bona)」でしょうか。

明治神宮での散策のひとつ時。例によって勝手にあちこちに散らばってビデオを撮ったりお土産屋さんをのぞいたり、などしている連中、時間にはちゃんと集まってくれるかなと心配させたのが、背の高いイタリア人の所に集まり始めました。見れば、彼が制服姿の中学生10人ほどに囲まれ、そのうちの一人と何か話しています。私を手招きするので行ってみると、彼らはペンフレンド・クラブのメンバーで付き添いの先生と一緒に明治神宮へ観光に来ているとのこと。イタリア人が「お前が日本語に訳せ」と、着ているTシャツの胸にある「esperanto」という文字を示して、いま話しているのがこの言葉、この言葉で世界中の人が分かり合える、俺たちは横浜で一週間、大会を開いたあと、観光しているんだ、隣にいる奴はベルギー人、あれはアイルランド人、こちらはフランス人だ、といった調子で彼らに語りかけました。集まったエスペランティストの連中も口々に英語で何か言い出す。付き添いの先生が「エスペラントって、まだあるのですか」などと聞いてくる。バスの出発時間が迫り、「まずは、インターネットで〔エスペラント〕で検索して」と皆に言っておいたのだが。そして、一緒に記

念写真〔次ページに掲載〕を撮ったりしたが、さて、その後、中学生諸君、何人かはエスペラントに関心を持ってくれたらどうか？あの T-シャツが写った写真を見てエスペラントのことを思い出してくれるだろうか？いま、連日の猛暑の日々に、時々、そんなことを思ったりしています。

「芦屋エスペラント会」のホームページ(<http://sakura.canvas.ne.jp/spr/espashiya>)にも載せています〔「エスペラントの効用」の第 48 番目〕。



Esperantistoj kaj Lernantoj en Ŝintoisma templo Meiji

Kiel Gasto aŭ Gastiganto

SASANUMA Kazuhiro (笹沼 一弘)

Antaŭkongresa ekskurso (大会前観光)

UKが始まる前日の8月3日(金)、数十名ものエスペランティストたちが、京都に集まりました。大会前観光の2つのグループが、市内を観光したのです。それだけの人が地元に来るのに、顔を出さないわけにはいかないと、当日のガイド役を買って出ることになりました。ツアーには旅行業者とエスペランティストの添乗員が1人ずつついており、私の役割は、各名所の紹介をエスペラントですするというものです。1週間前に、訪れる予定の金閣寺・銀閣寺・清水寺の3か所をかけ足で下見し、前日は夜遅くまで原稿の準備をして、本番に臨みました。

私が担当したのは、高槻エス会の中津さんがついて、広島・岡山などを回ってきたグループです。30人を超える大人数ということもあり、説明は行くまでのバスの中でほしい济ませて、実際の観光中は、きっちり見て回らせることが主な仕事になりました。何せ、世界中から寄せ集めの観光団です。もともと統率を取りにくい上に、目が不自由な人、足が不自由な人、きつそうな階段や坂道は「行かない」人など、いろいろ世話の焼ける人たちがいて、2人の添乗員はてんやわんやでした。幸い、海外在住の日本人が2人参加していて、だいぶ手助けをしていただきました。(なお、最初の金閣までは、光川さんにもお手伝いいただいております。)

皆さんの一番人気はやはり金閣。銀閣寺の庭は、ちょっとスケールが小さかったかもです。清水寺では、参道の土産物屋巡りを楽しんでいました。

昼食は湯豆腐でしたが、季節はずれということもあったのか、意外と不人気で、結構残している人もいました。また、座敷だったため、座りにくそうにしていた人も目立ちました。最後は立ったまま食べていた女性もいたぐらいです。この点、もう少し配慮が欲しかったなと思いました。

私の案内したグループは、ツアーの開始時には全員そろわず、予定の新幹線に遅れたと聞いていたので、最後まで心配していました。でも、何とか一人の落伍者も出さず(出したら大変!)横浜へ向かう新幹線に乗せて送り出すことができました。

(次ページへ)



昼食の様子(円山公園「しぐれ」)

Kongreso en Jokohamo (横浜大会)

Kvankam mi jam esperantistiĝis antaŭ pli ol 20 jaroj, mi preskaŭ ne havis ŝancon partopreni en UK. Lastjare mi unufoje povis ĝui kongresajn programerojn.

Post la atingo al la kongresejo, antaŭ mi subite aperis Esperantujo. Amaso da samideanoj en diversaj etnoj ege mirigis min. Sed mi tuj fandiĝis kun la komunumo. Mi sentis, ke mi estas unu el la membroj de tiu granda familio.

Mi ĉeestis en Internacia Kongresa Universitato, Artaj aranĝoj (japanaj tradiciaj artoj, teatraĵo), diskuto pri kongresa temo, ktp. La plej impresa programero estis kunsido de Azia Agado, en kiu salutis reprezentantoj de pli ol 10 aziaj landoj. Krome, dumtaga ekskurso tre plaĉis al mi. Kiel unu turisto mi povis ĝui turismon en Kamakura.



Kunsido de Azia Agado

Min iomete senkuraĝigis, ke ĉiuj ĵurnalo kaj televido preskaŭ silentis pri nia kongreso dum la periodo. Ne nur mi, sed iu japana partoprenanto survoje plendis pri tio. En 1965, pri la Tokia UK, la reagoj de amaskomunikiloj estis iom aliaj, ĉu ne? Ili probable raportis nian agadon kiel unu el la gravaj novaĵoj. Mi opinias, ke tia diferenco bone spegulas la grandan ŝanĝon de japana socio. Antaŭ 40 jaroj ni preskaŭ ne havis ŝancon vidi alilandanojn surstrate. Kontraste, en nuna Japanio internaciaj eventoj kun miloj da partoprenantoj ne estas maloftaj. Milionoj da alilandanoj ĉiam vojaĝas, kaj eĉ loĝas en nia lando. Oni jam ne konsideras UK-on kiel specialan eventon.

Sed nia agado estas sufiĉe unika, ĉu ne? Krom Esperantujo ni malofte trovas internaciajn agadojn kun tiel multaj landoj, en tiel intima atmosfero. Ni daŭre ĝuu kaj kreskigu nian agadon!

< 要約 >

初めて参加した世界大会，すぐになじんで，アジア運動の会合を始め、いろいろなプログラムを楽しみました。マスコミが大会のことをあまり取り上げてくれなかったのは残念でしたが、国際化が進んだ現在の日本においては、やむを得ないことかもしれません。しかし、エスペラントは、他に類がないユニークな活動です。他にはありません。大いに楽しみ、成長させていきましょう。(笹沼)

京都のエスペラント会館について

相川節子（京都市下京区）

わたしの知る範囲で、「エスペラント会館」あるいは「エスペラント館」と名がつく建物は三カ所あります。まず、東京の早稲田にある日本エスペラント学会のビル。そして、山梨県にある同学会所有の「八ヶ岳エスペラント館」。このふたつは、名前のとおり、エスペランティストのための施設で、書籍や資料もたくさん備えています。

三つ目としてここでご紹介するのは、名前だけは「エスペラント会館」だけれども、中身はエスペラントとは直接関係のない個人所有の小さな建物です。まず、概要を説明しますと、

業種 : 貸会議室

敷地 : 60平方メートル（間口4メートル）

建物 : 3階建て

所在地 : 京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6

開業 : 2006年9月

営業時間と定休日 : 10:00-21:30 毎火曜日、年末年始、お盆は休み
ということになります。

つまり、エスペラントのための施設ではありません。「エスペラント会館」と名をつけたのは、「エスペラント」という名前の露出度を上げたいというだけの理由です。「週刊金曜日」という雑誌には、NPO法人が主催する講座の会場としてよくこの名がでていきますので、このもくろみはある程度実現したと言えるでしょう。

営業内容はエスペラントと関係はないのですが、この建物をつくろうと思った動機は、京都エスペラント会の活動と密接に関係しています。

京都のような大都会では、小規模サークルが定期的集まる会場を確保することがむずかしく、京都エスペラント会もずいぶん苦労してきました。

その解決策として、故丸岡共子さんが会に提供してくださったのが、堀川御池にあったマンションの一室、通称「サローノ」で、1981年から1988年まで（事情で中断したことはありましたが）会の事務所兼例会場でした。

この時、自前の事務所があるありがたさと、個人のお宅を使わせていただく限界の両方を知りました。当時としては珍しいオートロックのマンションだったため、持ち主が来ないと中に入れない。それに個人の所有物ですから、持ち主が健在である間しか使えません。丸岡さんのご病気でサローノが閉鎖された頃から、「いつかわたしも例



緑色の
エスペラント会館

会場を提供できるようにしたい」と考え始めました。

2000年頃に借金して土地を入手、2006年の退職を機に建物を建てて、貸会議室としての営業を始めました。そして、2007年2月から、京都エスペラント会の例会場として使っていただいています。

丸岡さんはご自身のマンションを無償提供してくださいましたが、わたしはビジネスとしての貸会議室という形態を選びました。「サローノ」の教訓から、わたしが病気になったり死んだりしても、相続人である息子が娘がひきついでくれる可能性を残すためです。しかし現実はきびしい。開業から1年半たちましたが未だに大赤字、光熱費と固定資産税を払うのがやっとの状態で、今のところは、「あとを継いでくれ」と言える状況ではありません。ま、公務員をやっていた者が商売を始めたんですから、文字通りの「武家の商法」なんです。

実は、ここにエスペラントの本をある程度ストックしておき、欲しい人がおられればすぐに買えるようにしたい、と考えていました。特に初心者のうちは、「辞書がほしい」と思い立ったらすぐに手に入らないと、意欲がしぼんでしまうこともあります。

でも、関西エスペラント連盟の事務所の仕事を手伝ってみて、本の仕入れや在庫管理や販売が、いかに複雑でむずかしいしごとかを思い知りました。とてもわたし個人でやれるものではなさそうです。

一方では、横浜での世界大会に向けて、関西エスペラント連盟主催の「会話講座」を毎月ここで開いたり、連盟の個人会員の会費を預けに来る方があったり、連盟が出版する教材CDの録音にここを使ったりと、連盟の出先機関のような役割もさせてもらっています。また、有志でエスペラントの勉強会をしておられるグループのご利用もあります。

みなさんも機会があれば、エスペラントに関係があってもなくても、ぜひご利用を。インターネットを使える方は「エスペラント会館」で検索してみてください。

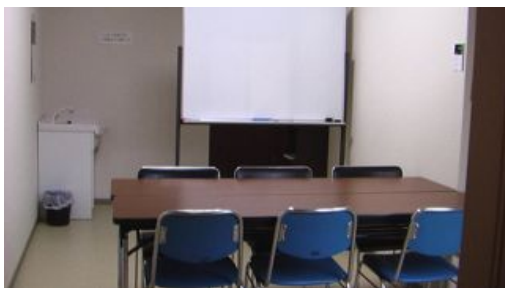
エスペラント会館ご利用料金

(エアコンご利用の場合は午前50円、午後・夜100円を加算)

	人数の目安	10:00-12:00	13:00-17:00	18:00-21:30
1号室	6人	700円	1400円	1400円
2号室(防音室)	6人	1000円	2000円	2000円
3号室	12人	1000円	2000円	2000円
4号室	6人	800円	1500円	1500円

申込は2ヶ月前から(定期的にご利用のお客様、全館貸切のお客様は3ヶ月前から)エレベーター、車いす対応トイレがあります。盲導犬・介助犬歓迎します。

1号室（2階）



2号室（防音室、2階）



3号室（3階）



4号室（3階）



(Resumo)

“Esperanto-Kaikan” estas eta domo kun 4 kunsidĉambroj, kiujn diversaj grupoj uzas kontraŭ pago. Mi konstruis ĝin por ke diversaj grupoj, inkluzive esperantistojn, facile trovu kunvenejon. (Aikawa)

エスペラント会館の誕生と広報

光川 澄子（京都市北区）

エスペラント会館の完成時は、Al Vi Kara が冬眠中でしたので、ここにあらためてのおよろこびと、広報係としての感謝のご挨拶を申し上げます。

相川さんが、かねてから定年後の生活設計として貸し会議室をつくり、一般の人たちに低価で集会の場を提供したいという夢をお持ちだとはお聞きしていました。

でも、その夢をこめて「エスペラント会館」と名づけられるおつもりだったとは知りませず、この名前が京都エスペラント会の広報活動にも、大きく影響することまでには思い至りませんでした。
(次ページへ)

そもそも私の京都エスペラント会の広報活動は、入会后まだ間もない頃、家で日本語を使って、会のお手伝いができることがあればとおたずねしましたら、その方が「それでは広報を」と言われた一言から始まりました。

とは言いまして、それまでの会の広報資料らしいものは無く、全てが手探りからの出発でした。

それがやがて習い性となって、新聞や情報誌など何をみても無料案内欄に目がおのずと吸い寄せられるようになり、入門講座等の開催時には、これらの全報道機関に掲載依頼状を出しました。

その後は、電話のベルに一喜一憂しながら、連絡先の私宅へかかるかもしれない報道機関や会のチラシ、我が家の購読紙以外に掲載されたとすればその読者からの問い合わせ電話を、家でひたすら待ちつづけました。

こうして下手な鉄砲をうちつつけている間にも、会の事務所表示が、例会場に使用させて下さっていた相川さんのご子息・涉さん宅に移ったり、また通信技術も、私にとってはまさに“秒進分歩”のようなはやさで進化してきました。が、広報の連絡先だけは替えることなく私方にしていましたから、広報依頼後の私の電話番号の状況は変わりませんでした。

それがエスペラント会館完成以後、会館の住所と電話番号を、京都エスペラント会の事務所表示として使用させて下さることになりました。

これは私の電話番号からの開放ばかりか、広報書類の会の所在地に、長年の個人の住所にかえて、<エスペラント会館内>と書けることで、会の対外的信用、ひいてはエスペラントへの認識や関心をもつ人が増えるのではと思われます。

また何を催すにも、苦勞していましたが会場探しが不要となったことも、会の活動上大変有り難いことです。

そのかげには、賛助会員の相川さんの細やかなご配慮と、相川さんの次女・ひとみさんの対外的な応対等へのご協力があります。

こうしたお二人にお応えするためにも、できるだけ多くの会員が会館へ足をはこび、各自が出せる力を出し合って、会館が、京都はもとより、アジアそして世界への、新たなエスペラントのうねりを造り出す拠点となることを、心から願って居ります。

相川さん、ひとみさん、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

(終)

Lastatempе mi lernis, ke —

de GOTO Miwa

① Infano vivas laŭ sia volo.

Ĝi ofte kontraŭas al la deziro de siaj gepatroj.



あー、
ちよと

Ekzemple,

mia filo ne kuŝas, kiam mi deziras,
(10-monata) ke li kuŝu.

Mia filino ne emas dormi,
(4-jara) kiam mi deziras, ke ŝi endormiĝu,



sed dormadas kiam mi male esperas.



まだねる〜

Ili estas "miaj" gefiloj.

Sed tiuj "miaj" ne signifas posedan rilaton.

Ili estas aliaj personoj al mi. (あたりまえだろう?)

② Lerni laŭ sia plaĉo estas granda feliĉo.

La du "aliuloj" ne lasas min esti libera.

Nu, Mi estas soifa al libereco por lerni ion!!!

mi faru ŝancon lerni E-on por mi mem (kaj por aliaj soifantoj♡)

Ĉu ni kune lernu!?

eĉ se vi havas etajn gefilojn

• kiam: ĉiu-ĵaŭde, 13:30-15:30 (tio ŝanĝiĝas de la venonta majo)

• kie: Esperanto-Kaikan ĉiu-lunde 10:30-12:00

• kiel: lernolibre (nun ni uzas *ESPERANTO 会話教室 新訂版*)
babile, kante, lude (depende de la partoprenantoj)

karakterizo de la kunsido: ① infanoj estas bonvenaj
② partoprenantoj reciproke guidas

kontakto: GOTO Miwa
090-9986-4681 / migoto@hkg.odn.ne.jp

要約 (というより結論が)

子育てで余裕がないとおなげきのみなさん。一緒に学習会しましょう。
(わけは下に↓)

Lia peto venas al mi, kiam la antaŭan peton mi forgesis.

MICUKAŬA Sumiko

Lia unua peto estis japanigi geedziĝan gratulan mesaĝon kaj la dua estis japanigi esperantajn hajkojn.

Nu, mi konatiĝis kun tiu franca s-ro Hervé MOUGIN en 1997, kiam mi alvokis kolekti eksterlandajn poŝtmarkojn kaj poŝtkartojn kun papilia desegnaĵo pere de la informejo en <Esperanto> de UEA.

La celo estis vaste informi la urbetanojn de la urbeto Nagasaka pri la antaŭlastajare malfermita Esperanto-Domo Yatugatake pro ekspozicio de la kolektaĵo en la Domo. Ĉar la urbeta simbolo estas Papilio Oomurasaki.

Superis mian antaŭvidan nombron de eksterlandaj reagoj, kiuj samideane respondis al mia alvoko, kiu sukcesis helpe de s-ro Tacuo Huĝimoto.

Jen estis unua peto de li.

La 2an de marto 2004, kiam jam forpasis sep jaroj post la papiliaĵa kolekto, subite lia retroŝto ensaltis en mian komputilon.

Leginte ĝin mi tuj rememoris lin plezuram, ĉar li estis la plej impresa kunlaboranto el la aliaj pro tio, ke li plurfoje sendis al mi diversajn papiliaĵojn kaj iufoje surprizis min per papera papilio kun kaŭĉuka ringo. Ĝi samtempe, kiam mi malfermis lian koverton, subite ekflugis en mia ĉambro same kiel vivantaĵo.

Ankaŭ ĉifoje li rondigis miajn okulojn pro neatendita peto de sia interesa intenco jena.

Eksta lernanto mia, kiu nuntempe loĝas en Britio, tie konatiĝis kun juna japanino, kaj ambaŭ dum marto geedziĝos en Nagasaki.

Mi intencas sendi al (i)li mesaĝon tiukaze, sed ne nur en lia kaj mia gepatra lingvo, la franca, sed ankaŭ en la gepatra lingvo de la edziniĝonto, la japana, kaj kompreneble en Esperanto, ĉar mi dubas, se ili scias jam pri nia Lingvo Internacia.

Li sendis al mi jenan tekston tuj post mia respondo, kaj komenciĝis kiel batalaj tagoj por mi. La laboro neniam forlasis min kiel fantomo kaj ĉiututage fiksadis min antaŭ komputilo por ne nur la japanigo, sed eĉ ni devis ofte intersendi

retpoŝtojn por la proksimiĝanta ceremonio en Nagasaki .

En la laboro mi ege cerbumis pri japana solena esprimo de geedziĝa gratula mesaĝo konforma al la familia etoso de la edziniĝonta juna japanino, pri kiu mi nenion scias.

Kvankam mi kuraĝe japanigis ĝin, kiu estis iom malkontentiga, sed la hasteco ne permesis min pliprofunde pensi kaj tie mia komputilo subite ne funkciis.

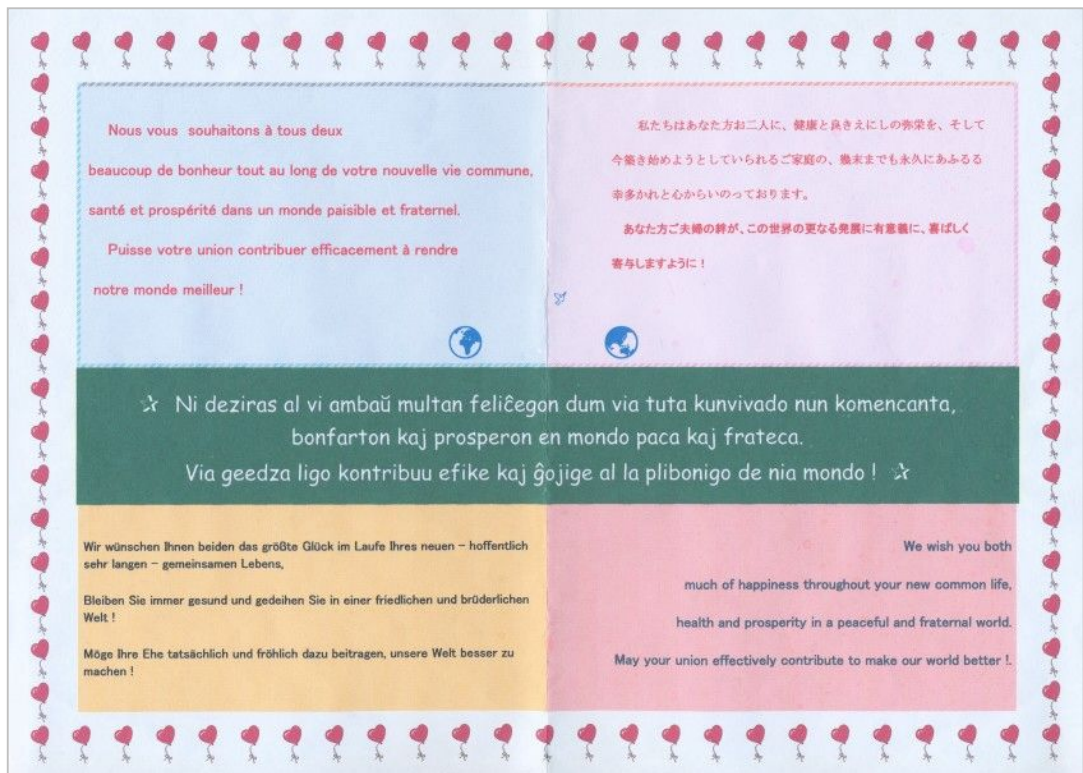
Ni deziras al vi ambaŭ multan feliĉegon dum via tuta longa kunvivado nun komencanta, bonfarton kaj prosperon en mondo paca kaj frateca.

Via geedza ligo kontribuu efike kaj ĝojige al la plibonigo de nia mondo.

私たちは、あなた方お二人の健康と良きえにしの弥栄を、そして今築き始めようとしていられるご家庭の、幾末までも永久にあふるる幸多かれと切に願っております。

あなた方ご夫婦の絆が、この世界の更なる発展に有意義に、喜ばしく寄与しますように！
2004年 03月 日

Li elfaris tian gajan mesaĝon, per kiu mi pliklare komprenis lian interesan intencon.



La lingvoj estas :

supre maldekstre, - la gepatra lingvo de la edziĝonto, la franca
supre dekstre, - la gepatra lingvo de la edziniĝonto, la japana,
tiel flugas la paca kolombo de Eŭropo al Azio, okcidente orienten !
zone meze, - la Internacia Lingvo, kiun la nova paro eble ne konas;
tamen sen Esperanto ne ekestis tiu gratulmesaĝo :
Esperanto tute bone taŭgas kiel ponto-lingvo internacia, kaj
tute respektas la etnajn lingvojn, tion ni ambaŭ denove
provis !
malsupre maldekstre, - la germana lingvo, ĉar mi estas instruisto pri ĝi kaj Loïc
(la baldaŭa edzo) lernis ĝin kiel unuan fremdlingvon,
malsupre dekstre, - la angla, ĉar Loïc kaj Mari (japana persona nomo de virino)
interkonatiĝis laborante en Anglio.

Mi pensis, ke mia laboro finfine finiĝis.

Do, en la koverto kun la gaja mesaĝo mi trovis alian paperon, sur kiu estis mane skribita tre grandega ruĝa vorto 'URĜE !'.

Post tiu atentigo sekvis jena aldona peto por li prizorgi la francajn gepatrojn de edziĝonta junulo. Ili ege maltrankviliĝas pri vojaĝo al Japanio, ĉar ili kaj preskaŭ neniam vojaĝas eksterlanden kaj neniom povoscias japanan.

Lia ĝeno venis de la fakto, ke li bezonis helpon por iomete respondi al la gastigemo de la japanoj kaj por (ne longe) paroladi dum la solenaĵo; tio verŝajne devas iomete surprizi la edziniĝonton, se mi bone komprenis.

Ni do kune preparis kelkajn liniojn en la franca, kiujn mi jam tradukis.
Ĉu vi denove estos tiel afabla, por traduki tiujn lastajn tekstliniojn (1-7)? Li estis tiel entuziasmigita, ke li estis preta "elparoli" (prononci) ĉiujn de vi senditan tekston. Ni prudente konsilis al li legi nur la francan tekston, (6 kaj 7) dum iu solenaĵo (se tiel okazas en Japanio), iu japanlingvano legos poste la de vi tradukitan tekston.

1) Dankon pro via akcepto !

お迎え有難うございます。

2) Multan dankon pro via varmkora akcepto !

温かくお迎え下さいまして 誠に有難うございます。

3) Al ni plaĉegas, interkonatiĝi kun vi pere de niaj karaj gefiloj.

お嬢様と息子のお蔭で、お知り合いになれましたことを、私達はとても喜んでいきます。

4) La futuro ebligu al niaj du familioj, same plekti fadenojn kaj ligojn de amikeco por pli bone koni niajn reciprokajn kulturojn kaj lingvojn !

これからは糸を縫い合わすように、私達家族同士がお互いの文化や言葉をより良く知り合えるよう、どうぞ親しくお付き合い下さい。

5) Vi estos bonvenaj en Francio inter ni !

どうぞ、私達のフランスへいらして下さい。

6) Estas por ni, la gepatroj, grandega ĝojo, ĉar ni povis vidi kun kiom da feliĉo niaj du geinfanoj interkonatiĝis kaj iom post iom tre estimis unu la alian, por finfine, tutnature, unuiĝi dank'al la amo.

Tion ni nepre volas festi kaj laŭdi, dum ĉi tiu karmemora solenaĵo.

Ni deziras al ili kiel eble plej multe kaj longe da feliĉo en ĝojradia estonteco plena je amo, paco kaj prospero !

お嬢様と息子が知り合って、やがて次第に尊敬しあうようになった二人が、その愛で極めて自然に結ばれていく様子を微笑ましく見る事ができましたことは、私達両親にとって、それはそれは楽しいものでした。

この二人が慈しみ、愛を育てて来たことを、今日の大切な記念の結婚式で、私達は是非祝って、褒めてやりたいと思います。

そして仲睦まじく輝かしい二人の将来に、出来る限り多くの幸せが、未永く続きますよう心から念じています。

7) Vivu la geedzoj ! Mari, Lorris

結婚おめでとう！

Mi denove japanigis ĝin kaj sendis al la japana familio en Nagasaki kune kun la japaniga geedziĝa gratula mesaĝo kaj japana 「ホントの国際語ってなんだろう？」.

Kaj pro jena lia letero mia laboro sendube finiĝis.

Kara samideanino el la fora Oriento,

Finfine, Japanio kaj Francio ne kuŝas tiel fore unu de la alia, pere de la interreto sen virusoj kaj precipe pere de nia kara komuna lingvo ESPERANTO !, kiu taŭgas kiel ponto-lingvo por tuta mondo kaj respektas ĉies kulturon kaj lingvon !

Mi vidis hodiaŭ matene la patron de la fianĉo, kaj do povis doni al li vian kontribuajon antaŭ lia forflugo al Japanio ! Ĉio en ordo !

Mi povis senti, ke li estis iom "malpezigita" : do, ni ambaŭ dankegas al vi pro via afabla helpemo !

Samideane kaj dankeme via ...

Hervé MOUGIN

(daŭrigota)

<要約>

1997年、2年前に開館した八ヶ岳エスペラント館の地元、長坂町のシンボル・おおむらさき蝶にちなんで、蝶に関する世界の切手とはがきを館で展示してはと、藤本達生様のお力添えで、世界エスペラント協会誌<Esperanto>で送付を呼びかけた。この協力者の一人のフランス人から、以後2度予期せぬ依頼があった。最初はこの収集から7年後の'04年突然、自分のドイツ語の教え子が、イギリスで日本人女性と出会い、長崎で結婚式を挙げる。ついては、エスペラントから、自分たち3人の縁につながる4カ国語に訳した祝辞をつくりたいが、日本語訳をたのめないかと。次はエスペラント俳句の日本語訳が.....。(光川)

Saluton !

Deguçi Naoko (Urbo Ayabe)

Saluton, karaj kamaradoj!

Pardonu, ke mi ne vidas vin dum longa tempo. Mi estas tre tre okupita, ĉar mi devas helpi miajn viglajn nepojn. Mi ĉiam deziras, ke mi estu pli proksimaj.

Nun, kiel la praktikado de Esperanto, mi sola ekzerciĝas en kantado de "Funauta" de Yasiro Aki, kiun s-ro Konisi Gaku tradukis, en ĉiu tago. Mia lastatempa celo estas kanti ĝin parkere. Mi esperas, ke mi iam povos prezenti ĝin al vi ----- (?) Ĝis la revido!

Preĝo

KAWANISI Teturo (Urbo Kanazawa)

Ĉielo !

Da via beleco
donu al ni nur iom.

Neĝo !

Da via trankvilo
donu al ni nur iom.

Vento !

Da via libero
donu al ni nur iom.

Kaj

Vintro !
Da via kuraĝo
donu al ni nur iom.

Nubo !

Da via moleco
donu al ni nur iom.

Por ke ni ĉiuj
povu vivi bele, libere,
mole, trankvile kaj kuraĝe.



La Redaktoro babilas - - -

前号(93号)が2003年8月発行ですので、4年8ヶ月ぶりの発行となります。編集子は入会したばかりの新参者(12頁参照)ですが、本誌の発行という大役を仰せつかり、当初の発行計画より2週間程度遅れましたが、何とか発行させることができました。本号を発行できたのは、何よりも、原稿の執筆者の皆さんが原稿をお送りいただいたお陰です。

Ni vige agadas en Kioto! (3~10ページ)で、京都エスペラント会の講習会、展示会、シリーズ交流会(5回)、市民フェスタへの参加など、多彩な活動を紹介しました。これ以外に、例会などでの外国人エスペ란ティストとの交流も多数ありますが、とても書ききれませんでした。

本号の印刷物は白黒のコピーですが、本号は電子ファイル(PDF)でも作成されています。PDFファイルをパソコンでご覧いただく、または、カラープリンタでプリントすれば、写真やイラストはカラーで見ることができます。ご連絡をいただければ、PDFファイル版(メモリ容量1.3メガバイト)を電子メール等でお送りいたします。



次号(95号)の原稿締切は、関西大会後の6月16日(月)です。

Al Vi Kara N-ro 94, eldonita en aprilo, 2008

京都エスペラント会 Kioto-Esperanto-Societo

事務局

〒600-8455 京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6 エスペラント会館

電話・FAX : 075-958-2475 (川越 幹)

ブログ : http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/

電子メール : esperanto_kioto@yahoo.co.jp

会費 : 正会員 年 7200 円 準会員 年 3600 円

郵便振替口座 : 01000-4-9895 口座名 : 京都エスペラント会

Al Vi Kara 編集局

〒618-0071 京都府大山崎町尻江 13-8 森川和徳

電子メール alvikara@yahoo.co.jp